

南あわじ市 平成 20 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(事業 委託 補助用)

I 基本事項

整理番号 154

事業名	セライナ市派遣・海外語学研修事業		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	市長公室			款	総務費・2款
電話	0799 - 43 - 5002			項	総務管理費・1項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)		目	国際交流費・13目
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	人づくり_知恵あふれ_郷土愛が満ちるまちづくり_			
	まちづくりの目標	一人ひとりが明日を拓くリーダー【教育】			
	施策目標	子ども達や市民が、南あわじ市の未来を切り拓くための、多様な能力を身につける機会を提供する			
該当する事業について「 」を選択		施策的事業	業務委託	負担金補助	

II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人に)	
		市内在住の中高生 (南あわじ市の一学年の生徒数:約520人 520人×4学年)	対象人数(人) 2,080
		意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 海外でのホームステイ体験を通じて国際感覚及び語学力を養い、国際色豊かな南あわじ市づくりのための人材を育成する。	
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか) 次の2つの事業を18年度から隔年実施している。 セライナ市派遣事業:中学3年生から高校3年生までの中高生(10名)を募集し、7月末~8月上旬にかけての13日間の日程でホームステイ体験を実施している。平成5年度から17年度までに191名派遣。 海外語学研修事業:中学3年生から高校3年生までの中高生を募集し、8月上旬から中旬にかけての13日間の日程で語学研修をしながらホームステイ体験を実施している。	
背景	(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など) セライナ市派遣事業:平成5年に旧南淡町がアメリカ・セライナ市と姉妹都市提携を締結し、毎年派遣・受入の相互交流をしてきた。 海外語学研修事業:平成10年度から旧緑町が、中学生海外派遣事業として実施してきた。 (アメリカ・シアトル市、オーストラリア・パース市・ケアンズ市)		
事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市直営 <input type="checkbox"/> 民間・その他 ()		
事業期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input type="checkbox"/> 設定なし		
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 旧緑町が、平成10年度から中学生海外派遣事業として実施していた海外語学研修事業及び旧南淡町が、平成5年にアメリカ・セライナ市と姉妹都市提携を締結し、毎年派遣・受入の相互交流をしてきたセライナ市派遣事業ともに新市に引き継ぐ。		

Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

「実施内容」により得られる活動結果指標 (アウトプット)	指標名	応募者数				指標単位
						人
	指標説明 (指標算出方法等)	応募者数により住民のニーズを図る。				
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
	目標値	15	10	10	10	
	実績値	29	8	11		
達成度 (%)	193.3	80.0	110.0	-		
目標値設定の考え方	募集人数10人に対し、目標値である応募者数が少ないと思われるが、これまでの実績から分析しての数値を設定している。					
アウトプットにより達成される「目的」に対する事業の成果指標 (アウトカム)	指標名	満足度				指標単位
						人
	指標説明 (指標算出方法等)	海外でのホームステイを体験を通じて、国際感覚を養い国際色豊かな南あわじ市づくりのための人材を育成するために必要かどうか満足度を計る。				
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
	目標値	100	100	100	100	
	実績値	100	80	100		
達成度 (%)	100.0	80.0	100.0	-		
目標値設定の考え方	アンケート等の実施により満足度を図る。					
資源配分 (インプット)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
	直接事業費 (千円)	3,088	2,372	2,777	0	
	事務費	170	27	109	0	
	学生等海外派遣事業補助金	2,918	2,345	2,668	0	
	財源 (千円)					
	国					
	県					
	起債					
	その他					
	一般財源[A]	3,088	2,372	2,777	0	
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	0	0	0	
	平均人件費(1日当り)	29.9	30.1	27.9	27.9	
	事業量1(事業に要した日数)					
	事業量2(事業に要した人数)					
年間経費([A]+[B])	3,088	2,372	2,777	0		
「目的」対象人数1人当り経費 (千円)	1.5	1.1	1.3	0.0		
受益者人数(8)1人当り経費(千円)	106.5	296.5	252.0	180.0		
経費に関する補足説明						

IV Check (事業の自己評価・一次評価)

	単位	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
達成度	活動結果指標目標達成度	%	193.3	80.0	110.0	-
	(アウトプットの達成度分析、問題点・課題などを記入。) 海外語学研修事業：平成19年度においては、達成率が低かったが、応募締切後に数件の問い合わせがあった。 セライナ市派遣事業については、平成20年度の今回で、合併以後3回目となる南あわじ市海外学生等派遣事業を募集したところ、10名の枠に対し11名の応募があった。					自己評価 (5点評価) 3
有効性	成果指標目標達成度	%	100.0	80.0	100.0	-
	成果向上率	%	0.0	20.0	25.0	-
	(事業実施による目的に対しての有効性分析、問題点・課題などを記入。) 海外におけるホームステイでの実体験は、吸収力の高い中高生にとっては、その目的に対してかなり有効性の高い事業といえる。					自己評価 (5点評価) 4
効率性	活動実績1単位当り経費	千円	106.5	296.5	252.5	-
	効率性増減率	%	50.4	178.4	14.9	-
	(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 適正な費用である。					自己評価 (5点評価) 4
必要性	公共性の高低	<input checked="" type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低		
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) セライナ市とは平成5年に姉妹都市提携を結び、派遣・受入事業の相互交流を実施しており、今後も継続が必要である。 また、有効性から考えても当該事業の継続は必要である。					自己評価 (5点評価) 4
総合評価	<p>自己評価をふまえた現状分析</p> <p>姉妹都市提携以来セライナ市との間には交流の歴史があり、将来の南あわじ市づくりのために、国際色豊かな人材を育成していくには最適と考える。</p> <p>また、オーストラリアへの海外語学研修についても、イングランドの丘・ファームパークのコアラによる友好を考えると、行き先としては適切であると考えます。</p>					<p>評価グラフ</p>

V Action&Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成21年度にできる改善・改革	平成22年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し
	国際感覚及び語学力を養い、国際色豊かな南あわじ市づくりのための人材を育成するために最適の事業であるが、募集状況等を勘案して派遣先を統一するなど合理化を図る。	同左
(現状維持以外の改善方法)	海外への派遣をセライナ市との友好姉妹都市交流のみに統合整理し、派遣と受入を隔年で行うようにする。よって、本年度は受入のみを行う。	同左
改善によって期待される効果 (現状維持以外の場合)	効果(アウトカム)面 海外派遣は隔年となるが、派遣と受け入れを交互に行うことにより国際交流事業は毎年度実施することができる。	効果(アウトカム)面 同左
	コスト面 隔年での経費に節減できる。	コスト面 同左
(現状維持の場合も記入)	仮に 事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) 将来の南あわじ市を支えていく子どもたちにとって、国際感覚を身につける機会が失われる。	